

十全看護専門学校でお手玉遊び教室を開催

看護師をめざす若いひとたちが、院内レクレーションやリハビリに役に立つ身近な道具に魅力発見

リハビリに脳の活性化に役立てたい

十全看護専門学校(新居浜市)で、5月24日、お手玉遊び教室が行われ、日本のお手玉の会から新居浜支部副支部長の今村シメ子さんと、新居浜支部の武本京子さん、近田敏子さんが指導に当たりました。

お手玉遊びの歴史や、お手玉遊びの効果などを話したあと、お手玉遊びの実技体験や、ミニ団体戦などの体験を行いました。

このお手玉遊び教室について、受講した生徒さんから、感想文が届きましたのでご紹介します。

- お手玉遊びは、『礼に始まり、礼で終わる』ということ学びました。
- 4千年もの歴史持つ、世界共通の遊びであることを知りました。
- お手玉を作るところから始まる遊びであり、そこが魅力だと思いました。
- みんなで楽しむスペースが、少なくともすむ遊びであることがわかりました。
- 声をかけながら遊ぶことは、看護の仕事にも通じる場所があります。
- お手玉回して大切な、相手を思いやる心はお互いを幸せにします。
- 指導して下さった方々は、高齢なのに若々しく感じましたが、お手玉をしているからなのでしょう。
- リハビリに役立つ遊び方が、たくさんあることがわかりました。
- 音楽を使ったゲームは、健康者、障害者、高齢者に関係なく、脳を活性化することが実感できました。
- 高齢者と接する時は子ども扱いするのではなく、経験から学ぶという姿勢が必要であることがわかりました。

身近な道具に
魅力発見!



日本のお手玉の会 新居浜支部副支部長
◆ 指導・講話 今村シメ子



日本のお手玉の会 新居浜支部会員
◆ 協力指導 武本京子さん・近田敏子さん

リハビリに役立つお手玉の遊び方が、たくさんあることがわかり、看護師になったら、役にたつのでは？